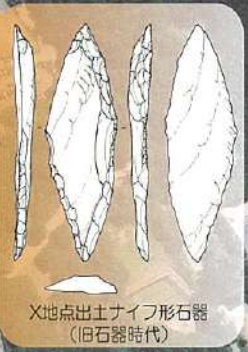
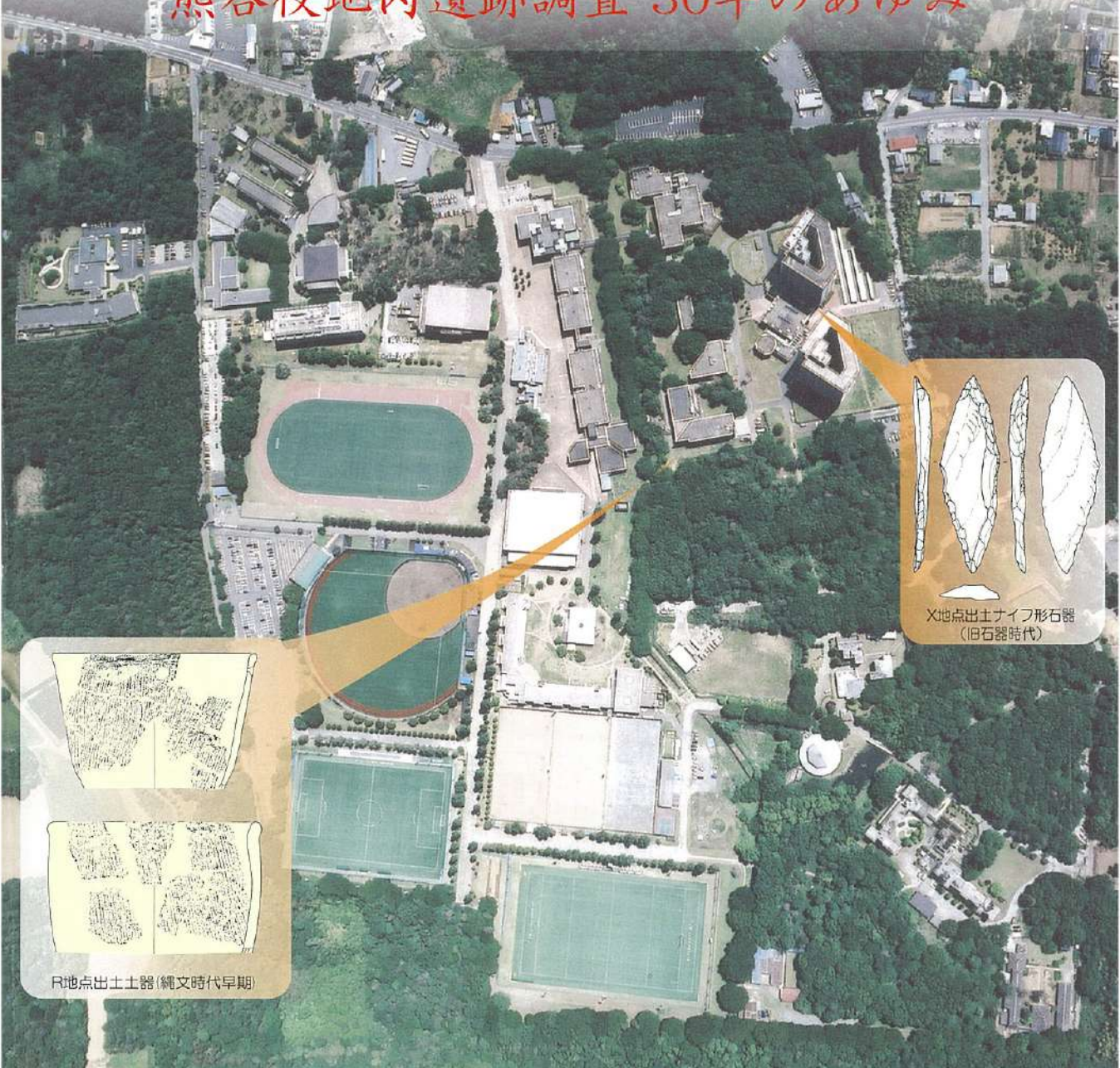


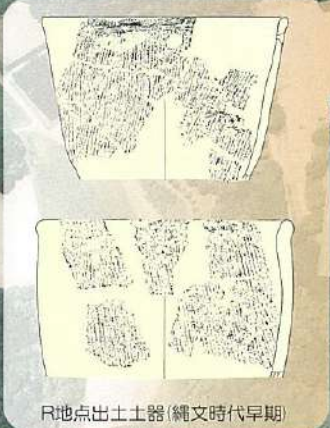
立正大学博物館 第6回企画展

立正大学熊谷キャンパスの遺跡

—熊谷校地内遺跡調査 30年のあゆみ—



X地点出土アイフ形石器
(旧石器時代)



R地点出土土器(縄文時代早期)

立正大学博物館

ごあいさつ

立正大学の熊谷校地は昭和 41（1966）年に開設されました。その後図書館など施設の建設に伴って、埋蔵文化財の調査が必要になり、熊谷校地に遺跡調査室が設置されたのが昭和 53（1978）年 4 月であります。そして、施設の増設などの際には必ず遺跡調査を実施し、平成 20 年度までの遺跡調査において、A～Z, a～z 地点までの 52 地点にも及ぶ調査を行ってまいりました。その成果として、旧石器時代から近世にわたる遺跡があることが確認されました。

なかでも、昭和 62 年の R 地点で確認された縄文時代早期の住居跡や、平成 6 年の X 地点出土の旧石器時代の遺物などが注目されるどころであり、埼玉県内でも貴重な遺跡として周知されています。

今回の企画展では、遺跡調査室 30 年の歴史を振り返りこれまでの出土遺物を一堂に展示し、学生・教職員をはじめ地域住民の方にも熊谷校地内遺跡について広く知って頂こうと開催するものです。

この度の企画展では、熊谷校地内遺跡の 30 年の調査成果をまとめ、熊谷校地に遺された過去の歴史を考古学的総括しました。自然に恵まれた熊谷の地は鎌倉時代の熊谷直実が著名ですが、はるか以前の旧石器時代から人々は生活してきました。熊谷校地内遺跡の立地する江南台地は水の豊富な地形であり、沖積低地に人々の活動が集中する以前の様相が窺えます。

土地は永続不変ですが、その利用は時代とともに変化しています。古墳時代から古代にかけての集落が、中・近世には墓地となったことが確認されました。現在は立正大学熊谷校地として利用していますが、この状態が永く続くことを願っています。

平成 21 年 7 月

館長 池上 悟

目 次

ごあいさつ

目次

例言

1. 熊谷校地内遺跡
2. 旧石器～縄文時代
3. 古墳～奈良・平安時代
4. 中世以後
5. 増田氏館跡（元境内遺跡）

例 言

1. 本図録は、平成 21 年 7 月 1 日（水）～ 31 日（金）に開催する第 6 回企画展展示図録として作成したものです。
2. 本図録は、池上悟館長の指示のもと博物館学芸員内田勇樹が編集しました。
3. 「5. 増田氏館跡（元境内遺跡）」掲載写真及び遺物は、熊谷市教育委員会提供の資料です。無断転載は行わないで下さい。
4. 企画展開催にあたり以下の方にご協力を頂きました。
新井端・蔵持俊輔・長谷尾篤・村山卓・熊谷市教育委員会

1. 熊谷校地内遺跡

立正大学熊谷キャンパスは、埼玉県北西部に位置する熊谷市の江南台地上に所在します。学生数の増加により大崎キャンパスが狭隘になったため、昭和41（1966）年に開設されました。校舎は狭長な水田跡地に建設されましたが、その後施設の建設にともなって遺跡包蔵地が確認され、約35万㎡という広大な敷地に、旧石器時代から近世までの遺跡が確認されました。熊谷キャンパス周辺には様々な遺跡が残っています。南側に隣接する文殊寺境内には、中世の館跡（増田四郎重富館）があり、今も外堀の一部が残っています。また、キャンパスから南西約1kmには野原古墳群が所在し、昭和38年に立正大学文学部考古学研究室が調査を行い、出土品が博物館に展示されています。

昭和53年に熊谷校地内遺跡調査室が設置

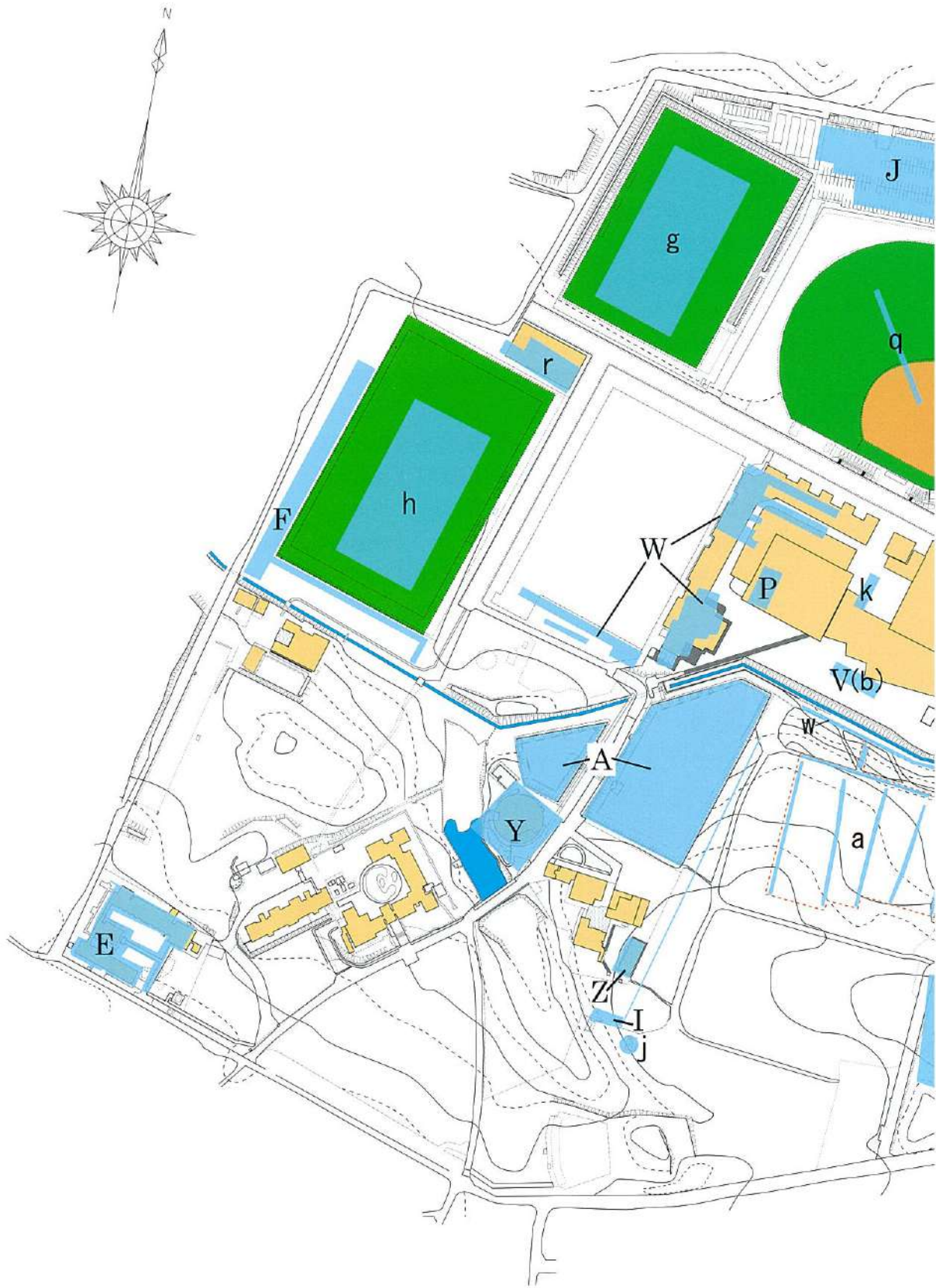
され、以後施設の建築などの際には文化財保護法のもと遺跡調査が行われてきました。昭和53年度から平成20年度までの30年間の調査で、A～Z、a～z地点までの52箇所が確認されました。遺跡は、旧石器時代から近世までの遺構が確認され、なかでもR地点の縄文時代早期の大形住居跡や、X地点の旧石器時代の遺物などが注目されるところであります。

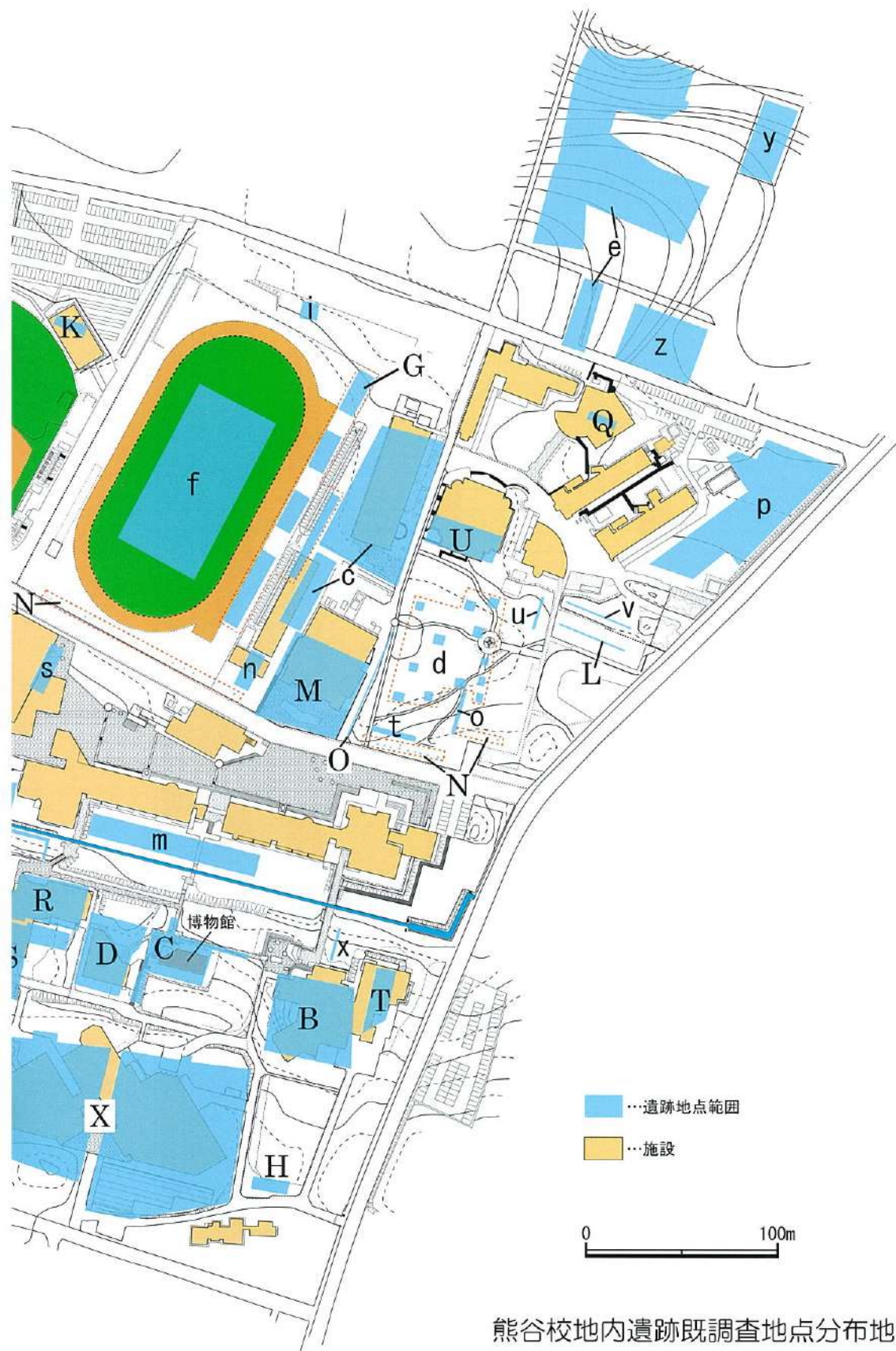
また、熊谷校地内遺跡では、250基もの土坑が確認されていることも注目されます。これらの土坑は、奈良～平安時代の墓坑群あるいは近世の墓坑群として考えられています。H地点においては、隅丸長方形平面の土坑から銭及び骨などが出土し、円形平面の土坑の性格想定に貴重な資料となっています。



立正大学周辺遺跡分布地図

- | | | | | |
|----------------|------------|-------------|------------------|----------|
| ● …旧石器時代 | ○ …縄文時代 | □ …弥生時代 | ● …古墳時代 | ● …歴史時代 |
| 1. 立正大学熊谷校地内遺跡 | 6. 萩山遺跡 | 11. 静簡院古墳群 | 16. 野原古墳群 | 21. 熊野遺跡 |
| 2. 向原遺跡 | 7. 上前原遺跡 | 12. 行人塚遺跡 | 17. 合羽山遺跡 | 22. 丸山遺跡 |
| 3. 宮脇遺跡 | 8. 万吉西裏遺跡 | 13. 上原古墳群 | 18. 成沢館跡 | |
| 4. 萩山南遺跡 | 9. 万吉北裏遺跡 | 14. 本田・東台遺跡 | 19. 元境内遺跡（増田氏館跡） | |
| 5. 原谷遺跡 | 10. 天神山古墳群 | 15. 高根横穴墓群 | 20. 荒神脇遺跡 | |





熊谷校地内遺跡既調査地点分布地図

地点名	検出遺構	遺物	所載号	調査年次
A地点	住居跡2軒,炭窯1基,土坑2基	土師器片,須恵器片,縄文土器8片	年報I	昭和53年
B地点	土坑26基		年報I	昭和53年
C地点	土坑90基	縄文土器16片,土師器5片,須恵器3片	年報II	昭和53年
D地点		石器15点	年報II	昭和55年
E地点	土坑25基,溝状遺構1条		年報II	昭和55年
F地点	土坑6基,溝上遺構4条	磁器2,スタンブ形石器1点	年報III	昭和55年
G地点	遺構無し		年報III	昭和55年
H地点	土塚1基	人骨片,歯,銭貨(永楽通宝)1,数珠玉(3ヶ),指輪状銅環1	年報III	昭和55年
I地点	遺構無し		年報III	昭和56~58年
J地点	遺構無し		年報IV	昭和56~58年
K地点	遺構無し		年報IV	昭和56~58年
L地点	遺構無し		年報IV	昭和56~58年
M地点	遺構無し		年報IV	昭和56~58年
N地点	遺構無し		年報IV	昭和56~58年
O地点	遺構無し		年報IV	昭和56~58年
P地点	遺構無し	尖頭器1点(表採)	年報IV	昭和58年
Q地点	遺構無し		年報V	昭和62年
R地点	住居跡3軒,土坑22基	縄文土器230片,石器19点	年報V	昭和62年
S地点	遺構無し	スタンブ形石器1点	年報V	昭和63年
T地点	土坑6基		年報VI	平成4年
U地点	遺構無し		年報VI	平成4年
V(b)地点	近代水田跡		年報VI	平成4年
W地点	(A)溝状遺構1条,(B)土坑,(C)溝状遺構5条,土坑4基,(D)井戸跡2基,溝状遺構7条	曲物,金銅製飾り金具,石鏃,陶磁器,土師器,須恵器,瓦質土器,円筒埴輪片	年報VI	平成4~6年
X地点	旧石器時代ブロック1,土坑20基,溝状遺構3条	ナイフ形石器3,楔形石器1,スポール1,剥片,有孔磨製石鏃,銅製和鏡,陶磁器	年報VII	平成6年
Y地点	遺構無し	縄文土器65片,石器・石類70点,土師器片5点,板碑片1点	年報VIII	平成7年
Z地点	遺構無し	石器変1点,陶器片1点	年報VIII	平成7年
a地点	遺構範囲5箇所	土器184片,石器類455点	年報IX	平成8年
c地点	遺構無し		年報IX	平成8年
d地点	土坑3基	土器44片,石器類15点	年報IX	平成8年
e地点	自然流路1条,竪穴住居跡2軒,竪穴状遺構2基,集石1ヶ所,土坑27基,ビット群1ヶ所,柵状遺構1条	縄文土器72片,石器16点土師器片7点	年報X	平成10年
f地点	遺構無し		年報XI	平成16年
g地点	遺構無し		年報XI	平成16年
h地点	遺構無し		年報XI	平成16年
i地点	遺構無し		年報XI	平成16年
j地点	遺構無し		年報XI	平成17年
k地点	遺構無し		年報XI	平成18年
l地点	遺構無し		年報XI	平成18年
m地点	遺構無し		年報XI	平成18年
n地点	遺構無し		年報XI	平成18年
o地点	遺構無し		年報XI	平成18年
p地点	土坑3基		年報XI	平成18年
q地点	遺構無し		年報XI	平成18年
r地点	土坑3基,柱穴10基		年報XII	平成19年
s地点	土坑4基		年報XII	平成19年
t地点	土坑1基		年報XII	平成19年
u地点	遺構無し		年報XII	平成20年
v地点	土坑1基	縄文土器7片	年報XII	平成20年
w地点	遺構無し	青磁3片	年報XIII	平成20年
x地点	遺構無し		年報XIII	平成20年
y地点	遺構無し	縄文土器片,石器4点,板碑片1点	年報XIII	平成20年
z地点	竪穴住居跡1軒,竪穴状遺構1軒,土坑5基	土器片,土師器10点,須恵器2点	年報XIII	平成20年

熊谷校地内遺跡既調査地点概要一覧表

2. 旧石器～縄文時代

熊谷校地内遺跡では、旧石器時代～縄文時代にかけての遺構・遺物が多く確認されています。旧石器時代の遺物は、平成6年度に調査されたX地点（ユニデンスA・B館）で石器類（約25,000年前）が22点出土しています。石器の種類はナイフ形石器3点・楔形石器2点・石核・石刃状の縦長剥片があります。

縄文時代の遺物は、各地点から出土していますが、特に校地内を東に流れる和田吉野川の南側台地上に多く見られます。R地点（2号館）では縄文時代早期（約1万1千年前）の竪穴住居跡が調査されています。南北11.5m×東西約9mの規模の平面楕円形を呈する大形住居跡として注目されています。また、この大形住居跡の北側に2軒の住居

跡が検出されており、出土遺物は少ないものの大形住居跡と同時期のものと考えられており、集落形成を窺わせる資料です。

また、e地点（特別養護老人ホーム）においても住居跡が1軒確認されています。長軸約5.2m、短軸約4.1mの隅丸長方形平面の竪穴住居跡です。遺物は、縄文時代中期後半（約4,500年前）の土器が出土しています。

この他にe地点からは自然流路跡が確認されています。この自然流路跡からは縄文時代早期の撚糸文系土器片が40点あまり出土しています。

この他の地点でも縄文時代早期～前半の土器片が多数見つかっており、縄文時代の初頭に集落形成があったことが窺えます。



X地点出土石器



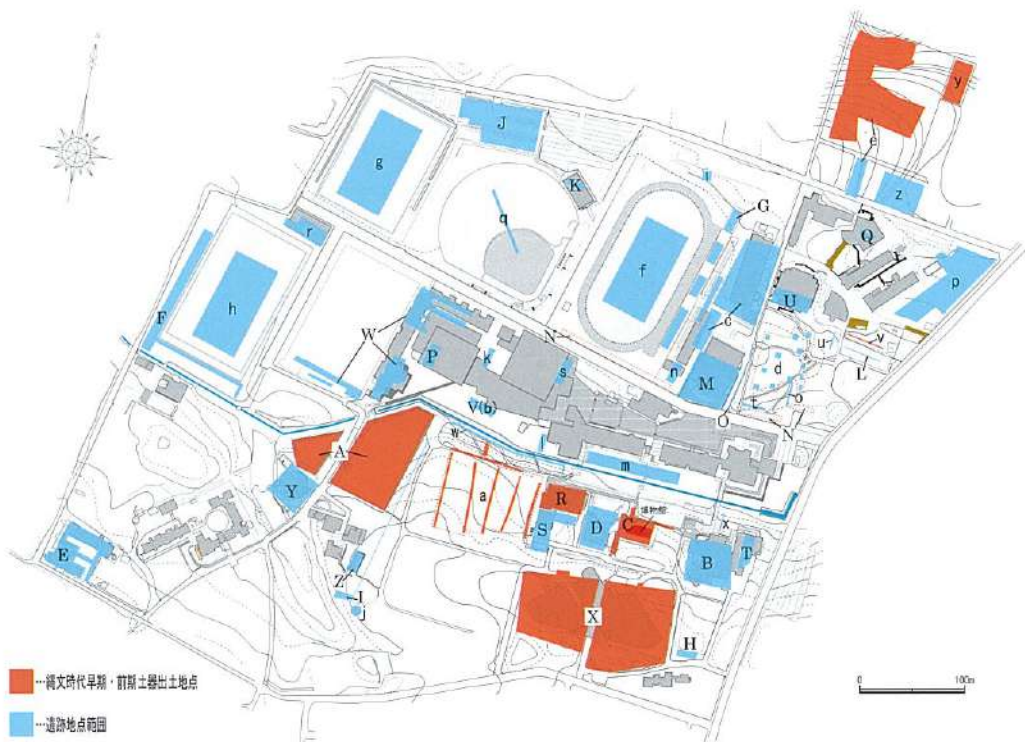
X地点出土石器



X地点出土石器



1～3…X地点出土石器、4…e地点出土石器



繩文時代早期・前期土器出土地点分布图



R地点第1号豎穴住居跡全景



R地点第1号豎穴住居跡遺物出土狀況



R地点第1号豎穴住居跡出土 尖底土器



R地点第1号豎穴住居跡出土 尖底土器



e 地点第 1 号竪穴住居跡全景



e 地点第 1 号竪穴住居跡復元模型



e 地点自然流路跡出土土器



e 地点自然流路跡出土土器



v 地点出土土器



X 地点出土土器



打製石斧

スタンプ形石器

礫石斧

e 地点出土石器

3. 古墳～奈良・平安時代

古墳～奈良・平安時代にかけての遺構は、A地点・e地点・z地点から住居跡が確認されています。

A地点では、2軒の住居跡が確認されました。第1号住居跡は、北側中央に竈を備えた南北長2.7m、東西長3.3mの隅丸方形平面の竪穴住居跡です。遺物は、土師器の坏4点、壺4点、甕2点、長胴甕2点、高坏1点、砥石1点が出土しています。第2号住居跡は、南東の角に竈を備えた長辺2.15m、短辺2.05mの隅丸方形平面の竪穴住居跡です。遺物は、土師器坏1点、須恵器坏蓋1点が出土しています。

e地点では、1軒の古墳時代の竪穴住居跡、奈良・平安時代の2軒の竪穴状遺構が確認されています。第2号住居跡は、北側中央やや右寄りに竈を備えた古墳時代後期（約1340年前）の南北約2.7m、東西約3.0mの正方形平面の小竪穴住居跡です。遺物は、土師器坏3点、高坏脚部1点、甕3点が出土しています。また、奈良・平安時代の竪穴状遺構は2軒あり、第1号竪穴状遺構は長軸約5.66m、短軸約3.56mの長方形平面の遺

構です。北西側の壁中央に竈と考えられる部分が検出され、遺物は出土していないものの平面形などから奈良・平安時代の竪穴住居跡と考えられます。また、この第1号竪穴状遺構に重複する形で第2号竪穴状遺構が検出され、残存部南壁約4m、東壁約4.9mの長方形平面と思われる遺構です。遺物は出土していないものの、年代は、第1号に先行していることから、第1号竪穴状遺構より若干古い時期と考えられます。

z地点では、1軒の住居跡が確認されました。第1号住居跡は、東南の角に竈を設けた長辺約3.3m、短辺約2.7mの隅丸長方形平面の小竪穴住居跡です。遺物は、土師器坏5点、須恵器碗1点、須恵器坏底部1点、土師器鉢2点、甕3点が出土しています。出土遺物より奈良時代（約1280年前）と考えられます。

このように、縄文時代初頭以後生活の場として使われていなかった熊谷校地ですが、古墳時代の終わりごろになり、また生活の場として使われるようになります。



A地点第1号竪穴住居跡全景



A地点第1号竪穴住居跡遺物出土状況



A地点第2号竪穴住居跡全景



e地点第2号竪穴住居跡全景



e地点第1号竪穴状遺構全景



e地点第2号竪穴状遺構全景



A 地点第 1 号竖穴住居跡出土遺物



e 地点第 2 号竖穴住居跡出土遺物



z 地点第 1 号竖穴住居跡出土遺物

4. 中世以後の時代

中世以後の遺構としてH地点（有隣館前ゲート）の土坑、W地点（サークルボックス）の井戸跡、溝跡、X地点（ユニデンスA・B館）の溝跡などが確認されています。

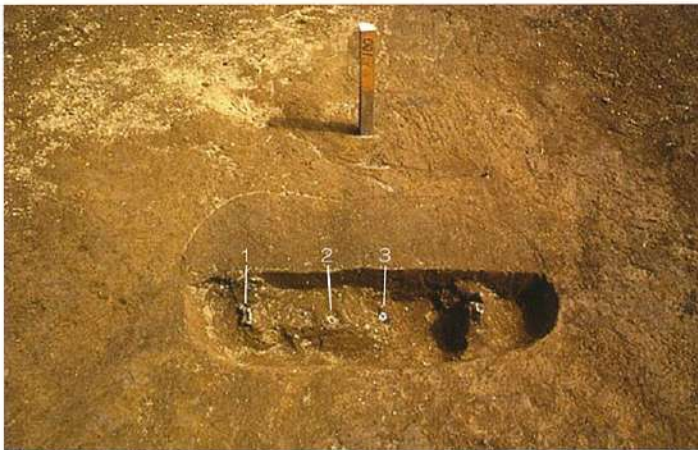
H地点の土坑は、長軸1.1m、短軸0.6mの不整長方形平面で、数珠玉3点、指輪状銅環1点、銭（永楽通寶）1点、人歯・人骨片が出土しています。熊谷校地内遺跡では、250基の土坑が確認されていますが、遺物を伴わずその性格が不明でした。しかし、このH地点の土坑から近世の土坑群として墓域が展開していた可能性が考えられます。B地点の付近は字名が「下能万寺」とあり、かつて「能満寺（現在の文殊寺の前身の寺）」があったことが文献にも見られることから、熊谷校舎の一部はこの寺に係る墓域と考えられます。また、近年の発掘の事例から奈良・

平安時代に造られた墓域群の可能性も考えられます。

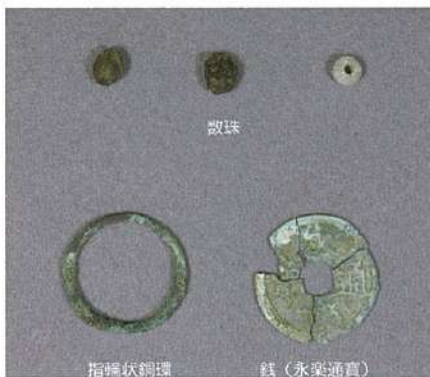
W地点からは、溝跡13条、井戸跡2基が確認されています。曲物や陶磁器類の出土から17世紀～18世紀後半頃に造られたものと考えられます。

X地点から検出された溝は、南側に隣接する文殊寺増田氏館跡（元境内遺跡）との関連が指摘されています。元境内遺跡では、増田四郎重富の館の外堀、内堀が確認されています。W地点で確認された溝からは、和鏡やカワラケ、天目茶碗など中世の遺物出土し、直接的な関りは明確に出来ませんが、増田氏館跡との関連性を窺わせる遺構です。

その他にも各地点で、中・近世の青磁破片や陶磁器が出土しています。



H地点土坑遺物出土状況



H地点土坑出土遺物



1. 人歯

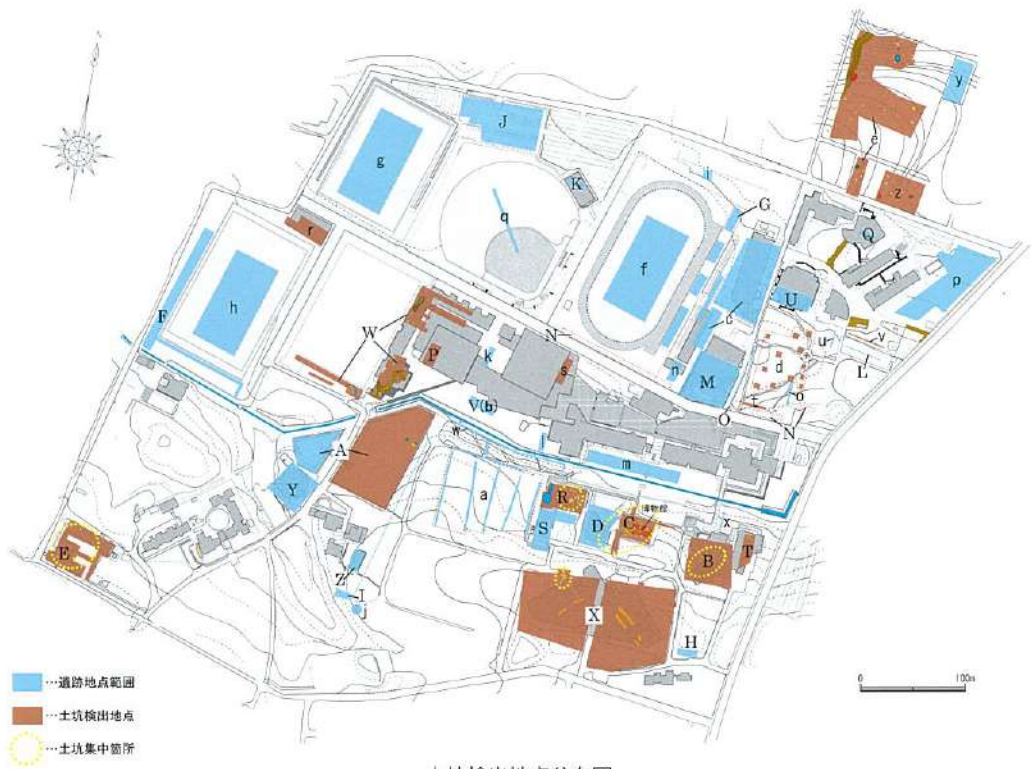


2. 指輪状銅環



3. 銭 (永楽通寶)

H地点土坑遺物出土状況



土坑檢出地点分布图



X 地点出土和鏡



w 地点出土青磁碗 破片



B 地点東側渠道出土五輪塔部材 (空風輪)

5. 増田氏館跡(元境内遺跡)

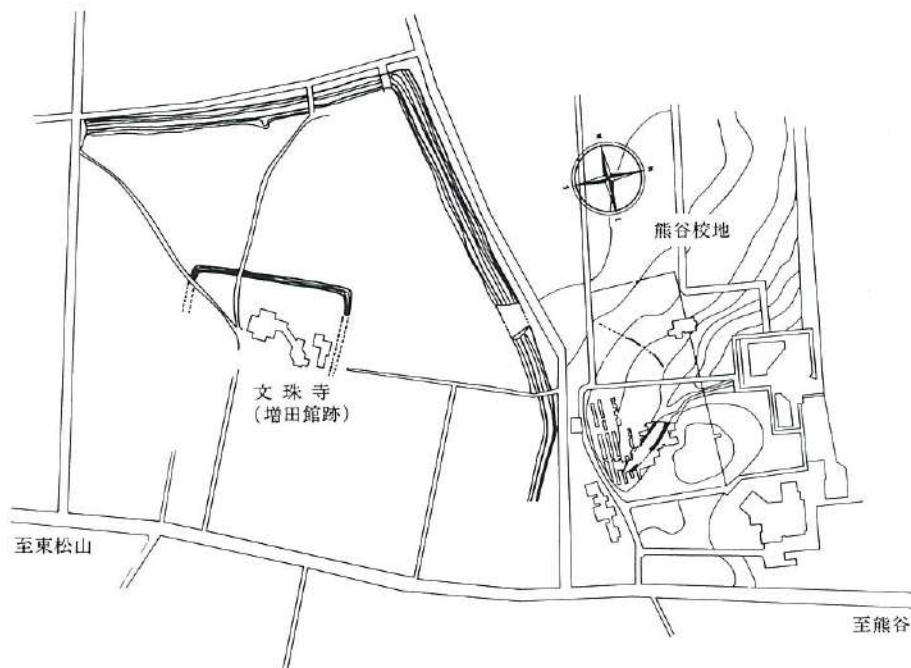
熊谷校舎の南側に隣接して文殊寺があります。智恵の文殊、日本三体文殊としても著名なお寺です。この寺域は、かつて増田四郎重富の館跡として知られ、現在も北側と西側の一部に外堀の一部が残っています。文殊寺は、かつて天台宗寺院である能満寺の一部の文殊堂としてありましたが、文明13(1481)年に火災に遭い焼失しました。その後文明15(1483)年に比企郡高見村(現小川町高見)四ツ山城主増田四郎重富が、自分の居住していた館1万5千坪を寄進し寺を再興し、寺号を文殊寺、宗派を曹洞宗に改めさせたと言われています。その後文政11(1828)年、昭和11(1936)年に火災に遭いましたが本尊は無事に救い出され、現在も毎年2月25日の縁日の際、御開帳されています。

この増田氏館跡は、昭和59年に埼玉県歴史資料館、平成8年江南町教育委員会により調査が行われています。その結果中世の銭・板碑破片・陶磁器類などが出土し、室町時代

から戦国時代にかけて使用されていたことが確認されました。平成8年の江南町教育委員会の調査では、本堂裏の一部が調査され、内郭の堀など中世～昭和にかけての溝7条、近世の廃棄土坑1基、ピット、土坑が検出されました。

今回の企画展では、熊谷校地内のX地点から見つかった溝との関連性から、元境内遺跡から出土した焼塩壺、陶磁器、板碑破片を展示しました。板碑破片は、意図的に破砕されて溝に投げ入れられていました。また、板碑破片などともに大量の陶磁器類が廃棄されており、2度の火災の際に溝が埋められたことも確認されました。

陶器は「京焼写し」と呼ばれる「京焼」を真似た16世紀中頃～19世紀中頃にかけて肥前・尾戸・瀬戸美濃・信楽諸窯で生産された陶器です。展示品は、18世紀頃の梅花文(瀬戸美濃産)や楼閣山水文(肥前産)が描かれた陶器です。



熊谷校地遺跡 X 地点検出溝と増田氏館跡



1～3…元境内遺跡遺物出土状況



元境内遺跡出土 陶器
(梅花文・瀬戸美濃産)



元境内遺跡出土 陶器
(楼閣山水文・肥前産)



元境内遺跡出土 焼塩壺



元境内遺跡出土 板碑
1. 图像板碑



2. 板碑 (主尊不祥)
3. 阿弥陀種子板碑



4. 阿弥陀三尊板碑
5. 名号板碑



6. 阿弥陀種子板碑
7. 阿弥陀三尊板碑
8. 阿弥陀三尊板碑
9. 名号板碑



遺跡調査風景



A地点(昭和53年6月)



C地点(昭和54年8月)



R地点(昭和63年4月)



X地点(平成6年7月)



v地点(平成20年6月)



z地点(平成20年9月)



z地点(平成20年9月)

第6回企画展

立正大学熊谷キャンパスの遺跡
—熊谷校地内遺跡調査 30年のあゆみ—

編集・発行 立正大学博物館

発行日 平成21年7月1日

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048-536-6150 / FAX 048-536-6170

E-mail; museum@ris.ac.jp

URL ; <http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷; 光写真印刷株式会社)

